

企画名：クロツラヘラサギフライウェイ子ども交流プロジェクトの国内外発信

団体名：Team SPOON

1. 報告要旨

本プロジェクトは、絶滅危惧種の渡り鳥であるクロツラヘラサギのフライウェイ地域の子どもたちが、国や地域を越えて交流する「子ども交流会」の成果を、国内外の国際会議等で発信することを目的としました。子ども交流会では、フライウェイの中で国境を越えて人と人がつながり合うことの重要性が見いだされました。これを発信することによって、クロツラヘラサギが渡る地域において、多世代の人々が交流し、協力し合い、自然環境が継続的に保全されていくことを目指しました。

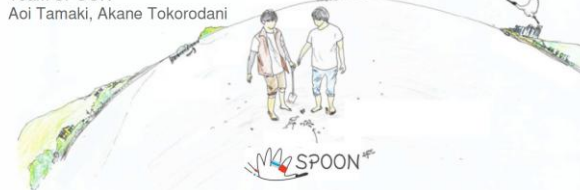
2025年度は、3つの国際的な場で発信を行いました。7月にはジンバブエで行われたラムサール条約 COP15 エキシブションに出展し、子ども交流会の成果報告の展示を行うとともに、フライウェイのつながりを可視化するリストバンドを身に着けるミニワークショップを実施しました。11月にはフィリピンで開催された東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ(EAAFP)のパートナー会議(MOP)にて、クロツラヘラサギ作業部会と共催でサイドイベントを実施しました。会議では、ラムサール条約事務局長とのユース懇談会も実現しました。加えて、これまでの活動実績が評価され、12月には台湾・台南で開催された国際フォーラムに招聘されて参加したほか、タイでの Pacific Rim Community Design Network 会議において、都市計画やコミュニティデザインという異なる学術分野に向けて、本プロジェクトのスケールアップの可能性について口頭発表を行いました。

これらの発信を通じた最大の成果は、子どもたちが生きものの圏域で繋がる価値を、各国の政策立案者や専門家と共有できたことです。特に国際会議の場において、参加者が多様な言語でクロツラヘラサギの物語を輪読するワークショップ等を通じ、環境問題や平和構築といった個別のテーマが不可分に結びついていることを実感として伝えることができました。また、本助成による活動を通じて、各地域の市民団体や国際的な専門機関との強固なネットワークが構築されました。分断が進む国際情勢の中にあっても、フライウェイにおける市民レベルの交流を絶やさず、次世代が主体的に連携していくための実践的な土台を築くという、大きな社会課題の解決に向けた確かな一歩を踏み出すことができました。



Connecting People, Nature and Society Through a Migratory Bird : Black-faced Spoonbill Program Designed for Scaling Up

Team SPOON
Aoi Tamaki, Akane Tokorodani



2. 成果物

1. 「フライウェイ子ども交流会 成果報告冊子(日本語・英語)」(2025.6.20)
2. ニュースレター「クロツラ日報」多言語版(COP15、EAAFP MOP、学会発表報告等)」
3. 日本クロツラヘラサギネットワーク報告会において「子ども交流会」の報告(2025.9.6)

4.	報告記事「 東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ(EAAFP)第 12 回パートナー会議(MOP12)でのサイドイベント 」(2025.11.30)
5.	報告記事「 台南で開催の国際フォーラム”The Intertidal Symbiosis of Black-faced Spoonbill and Wetland Conservation: Past, Present, and Future(潮間帯の共生:クロツラヘサギ保全の実践経験から湿地の未来に向けた行動を展望する)”に参加してきました！ 」(2025.12.17)
6.	報告記事「 Pacific Rim Community Design Network 会議に参加してきました 」(2025.12.21)
7.	SPOON Instagram(@team.spoon_bfs)での情報発信(2025.10.4、11.15-18)